

第1回 千曲市総合計画審議会 会議概要

開催日

開催日時 令和8年5月12日（火） 14時30分から16時00分まで
場 所 千曲市役所 301会議室

協議状況（会議事項）

1 開会

2 委嘱状の交付

3 市長挨拶

本日は千曲市総合計画の審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様におかれましては、日頃よりそれぞれの立場で千曲市発展のためにご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。さて、早いもので第三次千曲市総合計画の策定から4年が経過し、新たな計画となる第四次千曲市総合計画を策定する年となりました。

思えば第三次総合計画の策定を始めた令和3年度は、令和元年東日本台風被害からの復興途上であり、また、新型コロナウイルスの終息が見えない中でしたが、審議委員の皆さんには、本日お集まりいただいた方の中にも何名かいらっしゃいますが、そういった中でも市役所へ足を運んでいただき、大変活発にご意見をいただき、同計画を完成させることができました。第三次総合計画が始まった令和4年度には、新型コロナウイルスの終息宣言が出され日常が戻り、令和5年度には千曲市誕生20周年を迎えました。令和6年度には、(仮称)屋代スマートインターチェンジの事業化が決定し、昨年度は新戸倉体育館の建設や清泉大学(仮称)農学部の開学が決定するなど、市を巡る状況は刻一刻と変化しています。

委員の皆様におかれましては、市民・市の代表として、第三次総合計画の将来像である、「人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～」並びに関連施策についてご検証いただくとともに、第四次総合計画策定に向けて、これからの千曲市について十分ご議論いただき、また、必要な施策もご提言いただきながら、千曲市愛と誇りがあふれるさらに魅力的なまちの姿を描いていただきたいと思います。

今年度末を策定目標とした短い期間で審議をお願いするわけではありますが、私を先頭に全職員が一丸となって皆様とともに考え、創り上げてまいりますので、よろしくお願いたします。

4 審議会委員及び事務局の自己紹介

5 正副会長の選出について

互選により会長：北島委員 副会長：西野委員 を選出

6 正副会長あいさつ

7 会議事項（審議会条例第6条の規定により、会長が進行）

- (1) 審議会の運営について
 - ・資料1に基づき事務局説明
- (2) 専門部会の設置について
 - ・資料2に基づき事務局説明
 - ➡質問等なし

- (3) 総合計画の策定方針・スケジュールについて
 - ・資料3・資料4に基づき事務局説明

【質問・意見・要望等（要旨）】

委員：

今回、特に強調されている「協働」から「協働・共創」への見直しについて、新しい価値をもとに創出する「共創」の理念を盛り込むという点には、私も賛同しており、非常に重要だと認識しております。

そこで、事務局側にお伺いしたいのですが、これまで千曲市で実施されてきた「協働」がどのようなものであったのか、そして今後「共創」を加えることによって、どのような観点から変革しようとしているのか、ご教示いただけますでしょうか。もし具体的な事例がございましたら、現段階で検討されている「共創」のイメージも併せてお聞かせいただきたいと思います。

事務局から説明がございましたが、一般的な総合計画は、各行政分野における既存計画の内容をまとめたものが多いと認識しております。今回、本計画がSDGsの理念を踏まえていると記載されておりますが、前回の計画では、SDGsとの関連において、それぞれの分野ごとの施策が17の目標のうちどれに合致するかという分類に留まっておりました。SDGsの本来の議論では、一つの政策、あるいは一つのまちづくりの取り組みが、環境、子育て、経済発展など、複数の側面に貢献するような統合的な政策を推進していくことが望ましいとされているところです。総合計画は、個別の計画では議論できないような横断的に取り組む政策を検討していくと良いと思います。

これまでの計画は、縦割りの、個別分野ごとの計画にある内容がそのまま掲載しているように見受けられる部分もあります。複数の様々な問題が生じており人口減少で予算も限られていますが、今回は「共創」やSDGsといった概念が盛り込まれていることから、可能な限り横断的な一つの政策が複数の効果が出てくるような統合的な取組を重視していただきたいと思います。ぜひ検討いただき、計画の中に一つでも二つでも重点の取組として載ってくると良いと思いますので、どのように横断的な取組を検討していかれるかを事務局の方からお伺いしたいと思います。

総合政策課長：

現在、市が行っている「協働」の事業ですが、主なところは市内の団体等が実施する事業へ補助金を出しています。市の総合計画と方向性が一致する事業について支援を行い、まちづくりを進めるという取組を行っています。県で実施している「元気づくり支援金」と同じようなイメージです。

「共創」については、現在も国スポに向けて今戸倉体育館の建設を進めてますが、民間の力を使いPFIの導入について現在取り組んでいるところです。そして昨年、民間活用の導入に関するガイドラインを市の方で作ってございまして、例えば、これから公共施設の大規模な改修など、運営等含めて進めていく中で民間の活力を導入していこうと取り組んでいるところです。

SDGsの横断的なところについては、第三次計画にもそれぞれの分野に当てはまる事業かがわかるように落とし込んでいます。しかし、SDGsの取り組みというのは千曲市の意識啓発が薄いのは確かなところで、数年前には協定を結んでいる民間事業者による研修会なども行われていますが、それぞれの事業の中でSDGsの考えが浸透し取り組んでいるかは、正直なところ少し薄いので

はないかと感じています。次の計画の柱の中で、SDGsに基づいた持続的なまちづくりというところはあげてはいますが、一番は「持続可能なまちづくりをどう進めていくか」というところに焦点を当てて進めていきたいと考えています。そのため、実際にそれぞれの事業や横断的な取組の中で、どのように進めていくかについては、今後検討が必要なところではあります。

委員：

「協働」から「共創」に変えていこうという非常に野心的だと思います。「共創」について事務局からお話があった民間の活力を活用したPFIも確かに「共創」だと思います。またこの後ご説明いただくとありますが、市民のワークショップを通じて市民から出てきたアイデアを行政と市民と企業が一緒になって事業化していくものもあると思います。「協働」から「共創」に変えるということは非常にいいと思うので、それによって何が変わっていくのか、どういったものを目指していくのかは、ぜひこれからの議論の中で、または具体的な取組を通じてでもでもいいと思いますし、何かガイドライン的なものもあるかもしれませんので、一緒に議論ができるといいかなと思っています。

私も他の地域の取り組みもいろいろ手伝っていますが、企業や市民や行政と一緒に議論して、プロジェクトが生まれるようなプラットフォームを作っているところもありますので、そのような「共創」を促す仕組みが、単なる補助金や事業だけではないと思いますので一緒に考えていけるといいかなと思います。

SDGsについても、ぜひ今後の議論の中で、ワークショップやアンケートでいろんな意見が出てくるとは思いますが、意見は聞くけれど聞いたままになる場合も正直言っていると思います。そうになってしまうとせっかく市民はいろいろな意見を聞かれたけれど、できたものは今までと変わらないければ期待外れになってしまいます。ぜひこれから意見を聞かれるものの中から、SDGs的な、統合的な視点で、どういった対策ができるのかについて、審議会や専門部会で共有したり、市役所の中で議論いただけるとありがたいです。また、必要があればいろいろな事例をお話できると思います。

総合政策課長：

ありがとうございます。ぜひご協力をお願いします。

また、先ほどの行政と市民と企業を含めた共創の取組というお話を聞きしていて、来年の4月から清泉大学（仮称）農学部が千曲市に開設するというところで準備が進んでいます。大学を核として、いろいろな連携事業を進めていこうとしており、市と大学と市民や企業で枠組み、体制を作って、地域の課題や、新たな商品開発のようなことが一緒にできたらいいなということを大学を含めて検討をしています。まさにそのような取組を進めていけたらいいなと思っています。

委員：

SDGsの話で、国際的な取組として2030年までに達成しようということだと思いますが、先ほどの事務局からの説明で、千曲市では実際認知が薄くてやっていることが少ないのではということでした。それなのに、基本的視点の大事な5本の中に「SDGsの理念を踏まえた持続可能なまちづくりを目指す計画」ということですが、今2026年から2030年までに達成することについて、どのようにお考えかをお聞きしたいです。

総合政策課長：

SDGsの取組については、行政が進めている全てのものが、最終的にはSDGsの達成を目指しているもの、そして誰も取り残さないなどということに続いていると考えています。しかし、職員自身が自ら進めている施策・事業がSDGsの達成につながっているという意識が薄いのではないかと、という意味で答弁をさせていただきました。そのため、当然、持続可能なまちづくりは、人口が減っている中であつてもどのように地域を維持していくかということが一番の課題になりますので、大事にしていきたいという考えであります。

（4）千曲市の現状について

- ・資料5に基づき事務局説明

(5) R7 市民意識調査の結果について

- ・資料6に基づき事務局説明
- ➡質問等なし

(6) 中高生アンケートの実施について

- ・資料7に基づき事務局説明

(7) 市民ワークショップの開催について

- ・資料8に基づき事務局説明

【質問・意見・要望等】

委員：

「ポリネコ！CHIKUMA」について、ホームページや市報などで名前は見た記憶がありますが、具体的にはどういうものか、より噛み砕いてわかりやすく教えてください。

総合政策課長：

「ポリネコ！CHIKUMA」は、元々はコロナ禍で対面で会議ができなかったり市民と行政とがコミュニケーションが取れないというようなことから、地方創生の交付金を活用して導入したシステムです。

何ができるかは、まず市が進めていきたいことや、市の課題などについて、設問形式により、例えば、今までのものであれば、防災の関係の設問を作り皆さんに解いてもらい、学びながら・確認しながら、状況も知ってもらおう。そして、最後に解いたテーマに対する意見を述べることができます。もう一つは、声の意見箱というものが常にポリネコの中に用意してあり、どんな時でも市民の皆さんが気づいたことなどを市に伝えることができます。この大きく二つがシステムでできることです。

これまでも昨年、第三次総合計画の設問や子ども基本法についての設問があります。中学生たちは全員授業で端末を使っていますので、昨年度からは、生徒全員にIDとパスを割り当てて、ポリネコを使える環境を作っています。子ども基本法を学んでもらい、自分たちが意見を表明していくことは大事なんだよということを、学んでもらった。また意見もポリネコを通じて出してもらおう取組も行ってきました。

今回は、ポリネコを使って市の状況をちょっと学んでもらいながら、アンケートを行っていきたいということです。

委員：

ありがとうございます。そうすると市のホームページなどに入口があるということですか。

総合政策課長：

市のホームページのトップページを開くと、そこに「ポリネコ！CHIKUMA」が表示される仕組みになっています。

委員：

中高生の意見をワークショップ等で聞くのは非常にいいことだと思っていますので、ぜひ中高生の参画と、先ほどの「共創」を実現していただきたいと思っています。この「ポリネコ！CHIKUMA」も千曲市ならではの手法でとてもいいなと思いますので、それと同時に先ほどの「共創」を進めていくためには、アンケートでは中高生から「あんなもの欲しい、こんなもの欲しい」などが出てくるのではないかと思います。私もある自治体で今、中高生の居場所、ユースセンターを作っていたり、その自治体の子ども計画の策定にも関わりましたが、普通にアンケートを取ると「スタバが欲しい」「イオンモールが欲しい」といったものや、または行政に対する要望になってしまいます。もしワークショップ形式で中高生が参加し、行政の方々や委員の皆様と議論する機会があれば、中高生自身が「こんなことをしたい」「こんなことができる」といういうものによって変わってくるのではないかと思います。

ユースセンターについては、例えばそういう場所に来ている中高生と少し意見交換をしてみるとか。ぜひ「共創」になるように、行政に対する要望だけではなく、一緒にまちづくりを考えていくような作りをするためには、多分アンケートだけでは難しいだろうなど、私の実践から感じているので、ぜひ少しやわらかい形でのワークショップをされてもいいかなと思います。

それから資料8の方もワークショップも非常にいいものだと思いますので、ぜひやっていただければと思いますが、ここもおそらく1回だけですと行政への要望がたくさん出てきてしまうと思います。「共創」にしていくためには、継続が必要で、継続する中で深掘りをして、かつそれが行政に「何かやってほしい」だけではなくて、「私達もこうするし、また一緒にやろう」というようなプロジェクトにつながるかもしれない。それが「共創」だと思っています。事務局側のパワーも必要だと思います。今年度中は2回かもしれませんが、例えば、市民の方が要望すれば継続していただくなど、ぜひその「共創」につながるような、市民の声がプロジェクトになっていくような仕掛けは考えた方がいいかなと思います。2回だけだとやって終わりになる可能性が高いと思いますので、ちょっと意見させていただきました。

総合政策課長：

今回のスケジュールの中で、まず中高生と一緒にワークショップを行う計画はありませんが、「市長と語ろう お出かけ市長室」という企画があり、5人以上のグループであれば誰でも申し込みできることになっています。例えば、昨年だと中学校から申し込みがあり、中学校に市長と関係部課長と出かけて行き、中学生とシェアトークをするという機会を設けてきました。そのような取組が、年に7、8回程度あります。今回の計画とは別に市民の皆さんの声を聞いて、市政に反映していこうという取組はこれまでも、これからも続けていく予定ですので、この取組をうまく使っていただければいいのではないかと考えております。

委員：

今回のワークショップの募集方法についてですが、市報、ホームページ、公式 SNS・LINE などと書いてありますが、中高生がここにアクセスするかなと思っています。普段から市の情報を受け取ってる方たちでしたら LINE への登録などをしていると思いますが、もし可能でしたら、中学校にチラシなどのご案内を配布し、また市内の高校などにも先生を通じて配っていただけたら確実に目は通していただけるかなと思いますので、記載されている募集方法とは違う形でも中高生にアクセスしてみたいかなと感じました。

総合政策課長：

中学生、高校生には事前にポリネコでアンケートをします。そのときに、ワークショップへの参加希望を行う告知と一緒に行っていきたくと思っています。そのため、アンケートに答えてくれた方はワークショップについても知ることができる仕組みを考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員：

紙ベースでアンケートを行うということですか。

総合政策課長：

アンケートは「ポリネコ！CHIKUMA」により端末で行います。中学生は学校でタブレットを使っていますので、それを使ってアンケートに答えるとともに、ワークショップがあることも子供たちに告知することができます。紙ベースではなくて、タブレットで行います。

委員：

タブレットでアンケートに答えるきっかけは何かあるのでしょうか。

総合政策課長：

中学生は学校の校長先生や、担当の先生を通じて、あらかじめこの総合計画のアンケートとは別にポリネコの取組への協力をお願いしています。協力依頼と一緒に ID・パスを割り当てる作業を行っております。またあらためて「総合計画のアンケートを行いますのでお願いします」と

いうお願いをしていく予定です。教育委員会を通じて、全ての中学生の生徒が端末で取り組むことができますので、あとは取り組み方については各学校のやり方で、例えば、朝のホームルームの時間、あるいは授業の総合学習の中で取り組んだり、いろいろな取り組み方はあると思います。なるべくたくさんの方に回答いただけるよう形をお願いしていきたいと考えてます。

8 その他

事務局より事務連絡

9 閉会